

# 或る幼児の生活の一端について

附屬幼稚園 安村 ふゆ

## Aの事

入園検定の時のメモには、遊びの際約束を守らず他の人を押しつける、おしやべり多し、こあるが此のAが入園當初のはかみを捨て、持ち前を發揮し出したのは入園後三日目であつた。即ち四月十四日の記録には、非常ないたづらぶり、特に注意觀察を要す、こある、その後、友達をぶつ、つねる、悪口をいふ等の事が印象に強かつたが、四月末には「唱歌の時——同じ場所にちつこしてゐない、南無妙法蓮華經！ きやあ！ こ叫びつゝ部屋中を駆けめぐる、他の幼児達は驚き呆れた顔つきでAの姿を目で追うてゐる。一同Aの爲になりをひそめ、すつかり氣をのまれた形である。一幼児怖い顔だねこ怖しさうに泣く。」こある。瘦せた細い偏食らしい感じの顔かたち、體つき、大きな目の爲に全體を異様に感じさせる顔、興奮の爲か、充血した様な感じの目——その少し容易でない雰圍氣を漂はせてゐるAが細い手をぶらん／＼左右に振り乍らこび廻る様は、私でさへ何か小悪魔さもいひ度い様な様子で、此の子をさうしようこ

いふ前に全く呆氣にさられてしまつた、ましてこども達が怖しいこ思ふのもむりのない所であつた。「唱歌の後はりゑをする——全然鉄が使へず模造紙の切れはしをみつけてはりつけようとし、鉄を使つてみ様さいふ意志を示さない、偶々來合せた實習科生に切つてくれと頼み歩く。」こある。此までもこ氣つき同日の記録にもあるが、朝送つて來た母親に對しては、「お母様歸つてもいゝのよ、あこでお迎へに來てね、さようなら」こ叮嚀にいひ、ふるまふ。母親が歸つてからの行動を餘りに違ふので、家庭に於てはこんな様子かこさゆかしいが二三日様子をみてからこ具體的に話さなかつた。其の次の遊戯の時には始めから加はらうこせず、遊戯室の中央に寝ころんだまゝで列に入る様に促すこ忽ちこひ起きてかけめぐるのであつた。例の奇妙な恰好である。外遊びの時は、切角友達が誘つても其の子をぶつたり、つねつたりするので大抵の子は敬遠してしまふ。幼稚園に入るまで友達と遊んだ事がないこの事で、その爲に特に興奮してゐるものこ思はれるが、凡てにわたつてかうした状態が

續いたので母親に様子を話す。母親は、家には佛壇がないが小さい時から神佛をやたらにをがむ癖があつて、神社、佛閣の前を通る時は、必ず其の眞ん前まで行つてをがまねば承知しない。あのお題目も小さい時から家で始終叫んでしようがない。併し人を罵るこゝばは幼稚園に来て始めて覺えたと思はれるさいふのである。その後毎朝大聲で叫ばないさいふ約束をくりかへし、二週間位で口にしなな様になつた。併しぶつ、つねる悪口する等の事は一向に止まず、さうした事をしてゐる時の目つきは何もなく凄味があり、全く可哀想になる。家庭に於ては弟にもかうした意地悪をしないし、むしろ反對に可愛がるこの話に、暫く母親にもかげから様子をみてゐてもらふが、始終彼方此方かけまわつてゐるAなので、何時も母親の姿をみつめてしまひ目的を達しられなかつた。尙、四月の下旬から辨當がはじまつて、こゝも達の樂しみが一つ殖えたが、Aは一寸も喜ぶ様子を見せなかつた。他のこゝも達が食前の手洗ひ、含嗽がすんで、もう兵隊さんありがたうの御挨拶を待つてゐる許りなのに、まだ悠々庭靴を履きかへてゐる様な有様である。食事が始まつても彼方此方見まわしたり、喋つたりしてすぐには食べようこしないのである。それで、そのグループに配當した實習生Mに何時もAの傍にゐてもらひ、促してもらふのであつたが仲々容易には口に入らないのである。

辨當の御飯は大抵結んであつて、小さな、本當に、こゝも一口握りが七つか多くて九つで、副食物は卵か肉類に同量位の野菜一種が普通である。魚、野菜は餘り好まない。他の食物にしても非常に少量で、毎食食べさせるのに骨を折るこの母親の話であつた。間食も大して欲しがるのでもなく、一體に食慾不振の様子、これでよくあの元氣が出るものさ感心するが、叔こんな瘦せてゐてはさうしたものか三案じられた。その中實習生Mも困りぬいてゐる様子なので、私がAの傍につきつきりで食べさせる工夫をする。全然放つておけば一時間半かゝつても二口は入らないだらうと思ふ程、彼方此方見廻したり喋つたりする。そこで黙つてよくかんで頂く事、御飯さお菜を代る／＼食べる事を毎日々々、くりかへして話す。それから約四十日になるがこの數日前からやつし御飯丈は全部頂く様になつた。でも一寸もおいしさうに頂かないので強ひて食べさせていゝものか、三疑問に思つてゐる所、今日不圖したはづみで食前に辨當を床にひつくりかへしてしまつた。今時分こゝもに食べさせてよい様なパンも附近には賣つてゐないし、家がごく近くなのだからすぐ歸つて食べた方が安心ぢやないかと思ひ、その事を話すに、急に悲しさうに泣き出し、「僕お家にかへるの厭、さうしても幼稚園で食べるの」さいふ。丁度稻荷すしだつたので袋をさつて頂かせたが今日の食事のお

いしさうだつたこも、早かつたこも。稻荷すしにひかれたのか、こぼして却つて欲しくなつたのか、何れにしてもさうしても幼稚園で食べるさいふそのいひ方はこの子も亦お辨當を樂しんでゐる一人である事を示すものと思はれる。明日は果してさうであらうか、好き嫌ひせず何でも食べてもつゝ肥つたこもになつたら、この子の性質も變るのではないかと思ふ。辨當に關してはこんな状態だが行動の方もやはり時の流れは何時も偉大なもので、此の頃では興奮も大分治つた様子で、目つきもぐつゝよくなり穩かな遊び方をする様になつた。そして自由畫等は大抵單色で汽車ばかり描いてゐるがこもかく一寸の間でも不亂に描く様子も見られる様になつた。他のこも達にも餘り干渉もしなくなつた。此の頃の雨の日の室内では積木のお家ごつこに入つたり、お人形をあやしたり、仲々素直な一面をみせてゐる。遊戯も、此の頃急にスキップが出来て自信がついた故か、漸く列に加はる様になり、萬事がさうやら軌道に乗り出した感じが出て來た。此のAがこまで普通のこもらしくなるか、それは、全く今後の樂しみであるがさう遠くない事を感じ、のぞみ、待つてゐる次第である。

#### Sの事

殆ど隔日にしか登園しないS——幼稚園にゐる間は進んで話しかけるさいふ事もないが十分愉快さうに遊んでゐる

のにさうした譯かこ何時も附添つてゐる祖母に聞く。「此の子は下が二人ゐるので殆ど私が育てましたが家では大人が多いのでさうしても大人中心の生活になり勝ちです。それで此の子もすつかり大人びた子になつてしまひました。大人びたもののいひ方等するこ祖父が賢いこ譽めるので益々いけなくなりました。私は餘り賢いこ偉いこはいひ度くないのですが、祖父がすつかり壞して終ひます。教育をするのには家中が氣を揃へてゐなければ駄目でございますね。所で此の子は朝六時半に起き七時半にはすつかり仕度が出来てゐます。所が此の子はまだ早いから八時半までトランプをしようこ申すのです。そして八時半になるこ近いから十分で行かれるねこ申し、あこ二十分しようこ申します。そんな風にしてぐつぐつ、のばし、今日は十時までに行く事にしよう等いひ、お終ひには遅くなつたから今日はお休みにするこ申すのです。皆でいろく云ひ聞かせるのですが一旦さういひ出したら絶體に譲りません。そして尙申しますこ何時の間にか御近所の家に行つて呼鈴を鳴らして入つて遊んでしまふのです。さうしたらよろしいでせうか——。又先日こんな事がございました。此の子は小さい時からお金に興味を持つてゐました。別に誰が使つてみせたわけではないのですが十錢呉れさしきりにせがむので仕方なくやりますこ、玩具屋に行つて三品位で十錢になる様な

ものを考へて買ふのです。所で先日女中に五十錢持たせてお豆腐を買ひにやりますと、夫れについて行つて歸りにおつりを呉れさいふのなさうです。女中は祖母様にお返しするのだからさいふも、お豆腐二丁買ったんなら三十八錢おつりがあるだらう、僕きつとお祖母様に渡すよと、大變確かさうにいふので、女中は渡してしまつたのです。尤も此の女中は近頃來たばかりで家ではお金を持たせないといふ事を教へてなかつたのですが、所で家に歸つてもさうしても私に返さないのです。いろ／＼いひ聞かせても駄目なので一室に閉ぢこめました。始めは非常に悪口してゐましたが母親が氣の毒がつて出してしまつたのです。それで私は今度は靜かな室に連れて行つて此の子の手を握り、お祖母ちゃんはSちゃん可愛い、の、だけさこんな開かないお手は大嫌ひよと申し、いろ／＼靜かにいひ聞かせますと、お金を持つのは早かつたね、と申して返してよこしました。何でも此の調子なのですがさうしたらよろしいでせうか、私がすつかり世話して居りますので一層責任を感じるのですが——」

この話、何かきけば大人つばい返事をするけれど、其の他には他のこども達と變りなく、元氣にジャングルで遊んだり念入りに畫を描いたり友達ともよく遊んでゐても面白さうなのに、何故幼稚園に來たがらないのかしら、又此の二、

三日お休み、例のぐづの爲かそれとも本當に病氣なのかSちゃんさうしたの幼稚園にいらつしやい！、心の中で叫びつゝSの登園を心待ちにしてゐる。

尙、此の二人に共通の點は、音楽を特に好む様に思はれる點である。即ち、Aは、遊戯の際にも、唱歌の場合にも、殆どかけ廻つてばかりるので、一向に興味がなにかと思ふと、自由畫を描き乍ら、又ぬりゑをしながら、いろ／＼なメロデーをよく口ずさむ。幼稚園では其の日はじめて此の子の耳に入つたと思はれるマーチや唱歌のメロデーを、音程も正しく氣持よげに歌ふ様は、別人かと思はれる程である。又、Sの場合は、唱歌の際は——幼稚園では平常でも慨してさうであるが、——極めて、もの靜かな態度で席についてゐて、心から愉快さうに歌ふ。聲は餘り大きく出さず、いはゞ湯上りの心地よさに微吟するさうな感じが受取られる。そして大人むきのレコードにはちつと耳を傾けるさうな態度を示す。

問題の子もさいふのは、結局、保母さんにまつての問題なのです、とおつしやつた倉橋先生のお言葉をおもひ浮べ、私にはこの子も——問題の子に見える未熟さをかこちつゝ、少しでもこどもの本質を掴みたいもの、ひそかに努め、願つてゐる現在である。